

放送日 平成29年3月1日(水)

担当者 消防署消防2課 主査 月田 清

おはようございます。消防2課消防担当の月田です。

消防担当の業務の中心は火災などの災害対応です。他には、火災などの訓練や救助・救急などとの連携訓練、小学校や幼稚園・工場などの避難訓練、消火栓などの維持管理業務も行っています。

中でも皆さんの身近にある消火栓の維持管理は、北広島消防独自のもので、近隣はもとより道内の他の消防でも実施されていない、高度な分解整備を行っています。

又、雪の季節に大型消防車が狭くなった道を通っているのを見て、邪魔に思われる事もあるかもしれませんが、災害時に通る事が出来るか、道路状況の確認と運転技術の向上を含め、消火栓の点検・除雪を行っています。皆さんには、ご理解とご協力をお願いいたします。

消防が発足したのは昭和49年で、今年で43年になります。私が入ったのは発足の翌年で、北広島団地が急速に開発されていた時でしたが、消防署の周りは空地で野うさぎの巣がある様な、のどかな所でした。

消防車の体制も大型車と小型車が1台ずつで、この小型車は消防団からの中古車でした。私も乗っていましたが、何とドアが無く冬は車内に雪が積もる様な車でした。

災害では、高速道路での多重事故や12時間以上消火できなかった倉庫火災など、大型の事故がだんだん増えてきました。

それに伴い消防の近代化が進み、最新の指令台が導入され、車両も救助工作車、はしご車などが入りました。

大曲と西の里に出張所も開設され現在は職員90名の体制になっています。

近年、三井アウトレットモールに代表される様に建物は大型化し、駅前のマンション群の様に高層化し災害は複雑多様化し活動の困難性が高まっています。

最新の技術・知識を身に着け経験を生かし、市民の皆様が安心して暮せる街を目指して努力して参ります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいadak大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月2日(木)

担当者 消防署救急指令課 主査 鈴木 幸夫

おはようございます。消防署救急指令課指令担当主査の鈴木です。

私は、119番通報についてお話したいと思います。

年間に約4,500件以上の119番通報を受ける消防指令室は常時2名体制で各種災害の受付窓口として対応しております。

多種多様化する災害の中、通報も様々で、日々対応に苦慮しているところでもあります。

皆さんは災害対応に必要な情報を聞き出すテクニックは何だと思えますか？

通報者の方にとっては、今まさに緊急事態！という状態で119番通報するのですから冷静さを失い、焦燥した状態や興奮した状態で通報してくることが多く、時には泣きながら何を言っているのか全く聞き取れないなど出動指令に必要な情報を全て聞き取ることが出来ないまま切断されてしまうことも少なくありません。

私をもっとも重要だと感じていることは通報者を安心させることだと思っています。

住所を聞いたら、「場所を確認しました。」出動指令をかけたら「消防隊を向かわせました。」この一言により通報者は数ある不安の中のひとつが解消され冷静さを取り戻すことが出来て、より詳しい内容を聞き出すことが出来るのです。

通報者と顔を合わすことがない消防指令室ですが通報者の目線に立ち安心していただけるように心掛け、現場活動隊が迅速に災害対応できるようにしていきたいと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月3日（金）

担当者 消防署消防2課 主査 大山 義幸

おはようございます。消防署消防2課救助担当の大山です。

私の担当について簡単に説明させていただきますと、24時間の交替制勤務で救助工作車や梯子車に乗車し火災現場や事故現場などでの人命救助活動を最優先に行なう担当です。

最近の災害は多種・多様化しており、専門的でより高度な知識が求められるようになって来ています。火災現場では建材やその他の素材も多様化し様々な有毒ガスを発生させ、交通事故現場では車両剛性の向上や高性能化によりスピードが増し衝突時の救出も困難なものとなって来ています。また、地震や集中豪雨・土砂崩れと言った自然災害も毎年のように全国各地で発生しており、消防の責務も益々大きなものになって来ていますと感じています。私は仕事をする上で大切にしている言葉があります。それが一期一会です。意味は皆さんご存知の通り「あなたと、こうして出会っているこの時間は、二度と巡っては来ないたった一度きりのものです。この一瞬を大切に思い、今出来る最高のおもてなしをしましょう」と、人に対する接し方を説いた言葉です。

先月、市内小学校に通うお子さんがご両親と共に来署され、卒業式で「将来消防士になりたい」と自分の夢を話すので署内を見学させて欲しい。との事でした。同僚と共に消防車両や救助資機材の説明を行い、後日そのお子さんからお礼の手紙が届き、その内容には「うれしくなり手の震えが止まりませんでした。消防士に絶対になります。」と書かれており、私達の対応がお子さんの将来に強く繋がっていることを感じました。今後も人と人との出会いを大切に、一期一会の気持ちで仕事に励んで行きたいと思えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月6日（月）

担当者 消防署救急指令課 主査 鈴木 皇輝

おはようございます。消防署救急指令課救急1担当主査の鈴木皇輝です。

私の担当業務である当市の救急現状について簡単にお話します。平成28年の救急出動件数は2,140件となり平成25年に2千件を超えてから4年連続で2千件を超える件数となりました。中でも急病に占める割合が高く、次いで一般負傷、交通事故となっております。また、程度別では医療機関受診後に帰宅する軽症の割合が全搬送人員の半数以上を占めることから、本当に救急車を必要とする重症傷病者への現場到着時間が全国的に延長している状況であり、北広島市も同様にここ数年延長する傾向にあります。

当市消防署では「救急車の適正利用」を救命講習会等で呼びかけたり、ポスター掲示などで広報しており、明確な数字には現れておりませんが、救急隊員の感覚として「あまりに適正を欠いた利用」は減少していると感じております。今後も更なる広報活動に重点を置き、重症傷病者からの救急要請時に遅延を生じないようにするとともに、市民のみなさまの救える命を確実に救えるよう努力していきたいと考えております。

また、我々救急隊が到着するまでの間に行っていただく応急手当も非常に大切なものです。職員のみなさまには3年に一度救命講習会を受講していただいております。生涯一度も行うことが無いかもしれませんが、命を救う重要なバトンの一つと考え継続して受講していただきたくお願い致します。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月7日（火）
担当者 消防署救急指令課 主査 岡 貴一

おはようございます。消防署救急指令課救急担当主査、岡貴一です。

私の担当、救急担当はその名のとおり「救急車で患者さんを医療機関まで搬送すること」が主な業務です。

私が日々の業務と生活の中で心掛けていることは二つあります。

一つ目は「思いやり」です。救急現場での患者さん本人はもちろんのこと、その家族に対しても「思いやり」を持って接するように心掛けています。

救急車を呼ぶことは、その人の人生で初めて、一生に一度でもある様な緊急事態です。そういった状況下でこそ「思いやり」を持ち接することで患者さんが医療機関で円滑に治療へと移ることができるのではと考えます。

二つ目は、「環境整備」です。

とはいっても今はやりの「断捨離」をしたり、大汗をかくような大掃除ではなく、身の回りを少しだけ整頓する、目に付いたゴミを拾う、気になる汚れを拭くなどです。

これらの小さな心掛けを一人でも多くの人が行うことの積み重ねで身の回りやフロア全体、職場全体が快適になり集まる人も働く人も気持ちよく過ごすことができると思っています。

正直、私自身この二つのことをどこまでできているのか自信はありませんが、今後も継続したいと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月8日(水)

担当者 消防署大曲出張所 主査 佐々木 敏文

市民の皆さま、おはようございます。消防署大曲出張所消防担当の佐々木と申します。

早いもので、消防職の業務に携わってから37年目の春を迎えようとしています。

私が勤務する大曲出張所は、昼夜を問わず24時間あらゆる災害に対応しながら、消防水利の維持管理、防火対象物の立入検査、そして、救急業務と3つの担当に分かれ相互協力の中、業務遂行しています。

我々現場活動隊に求められていることは、チームワーク及び連携です。皆さんの部署も同様だと思いますが、我々消防職も常日ごろからコミュニケーションをとり、いざという時に連携が取れるよう業務を遂行していかなければなりません。

ここで、必要なのが「ほうれんそう」報告・連絡・相談です。中でも、報告・連絡無くして、連携は取れないと私は思います。さらに、業務をとおして強い絆をつくり培われてきた消防の技術及び判断能力を後輩に伝承していかななくてはならないのが我々消防職に与えられた務めです。

平成25年2月、大曲出張所に空気を圧縮し泡を放出するCAFS車両が配備されました。以前は、火災現場での防衛活動と言えどとにかく大量の水を使用し冷却消火することが基本でありました。しかし、このCAFS車両は、泡を放出することにより、水に比べてより高い消火効果をもたらし、火災による被害を最小限度に食い止め、当然、より早く消火することができ水損等の二次災害に威力を発揮する車両なのです。ここで、気になるのが泡の成分だと思いますが、天然油脂石鹼いわゆる食器用洗剤とほぼ同じ成分です。

今後も、配備されている車両及び多種多様の資機材を使用し訓練等を継続していかななくてはならないと思っています。

貴重な、朝の大切に時間に耳を傾けていただきありがとうございました。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいたく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月9日(木)

担当者 消防本部予防課 主査 福島 宏幸

おはようございます。消防本部予防課査察担当の福島です。

現在の業務は、市内の事業所に立入検査を行い、火災予防に関する消防法令の履行状況や欠陥状況を把握し、是正指導をしています。

明後日3月11日は、未曾有の大災害から早6年が経過し、あの時の日本全体の混乱や不安の状態からは、人々の生活は落ち着きを取り戻しているようにも感じます。私たち消防職員の使命は、国民の生命、身体及び財産を保護することです。時として大規模な災害や特殊な災害が発生したときは、被災地の消防力だけでは対応できません。その時に活動するのが、緊急消防援助隊です。現在全国726消防本部5,301隊が登録され大規模災害等の被災地に出動できる体制が整っています。東日本大震災の時も、当消防本部からは、延べ7隊53名が現地で活動を行いました。

阪神、淡路大震災以降に減災という考え方ができました。自然災害に人は無力です。大きな災害を防ぐことはできない、しかし被害を最小限にすることは可能である考え方です。今後、30年以内に首都直下地震は70%、東海地震は88%の発生確率が発表されています。過去の災害から教訓を得て、災害を軽減することは可能です。起こった災害に対して市民の生活を守っていくには、我々市職員の一人一人が、市民目線を常に持ち、時として自分ならどう行動するかを考えていくことが必要と思います。これから起こりうる様々な災害や困難に対して、市職員の一人一人が「北広島市」というチームを、個々の個性だけでなく、チーム全体として業務ができるよう、「One for all, all for one」「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の合言葉で仕事をするすることで、すばらしい街になれると信じています。職員一人一人こそが、北広島の財産となれるように。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月10日（金）
担当者 消防署大曲出張所 主査 加藤 弘之

おはようございます。消防署大曲出張所査察担当主査の加藤弘之です。

私が勤務する消防署大曲出張所は、職員6名により消防車両1台と救急車両1台を運用、災害対応はもちろんですが、事業所や危険物施設に対する査察や防火訓練の指導、消防水利の維持管理、消防団との連携訓練、各種団体と住民に対する防火啓発などを行っています。

私が担当する査察業務の際に心がけていることが、二つあります。一つ目は、難題な査察案件を決して後回しにはしないことです。理由は、改善率が低下し業務量が増大するからです。管轄する大曲と西部地区には多様な事業所が建立し増加の一途、査察対象の施設はこれに比例し年々増加しています。数に追われて難題案件を後回しにすると、このような案件に限って改善が遅延します。査察のタイミングを逸すると相手方の理解が得られなくなることが多くなり、査察自体が難しくなることも珍しくありません。難題な案件は「相手方と接触する」「関わり続ける」「少しでも前に進める。とにかく行動しないと何も改善して頂けないと考えています。

二つ目は、相手の立場になって考えてみることです。私が発言した内容・通知文書の障壁は何なのか？選択肢はどれくらいあるのか？妥協点はあるのか？と改善への道のりを見出せることが多いからです。査察の際は何をさて置いても相手方に理解して頂くことが重要と考えています。

東日本大震災以降は、高い防災意識をお持ちの方が大多数で、早期改善となることが多くなりました。地道な査察も影響しているのかもしれませんが。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月13日（月）

担当者 消防署西の里出張所 主査 豊原 義久

おはようございます。消防署西の里出張所で消防担当をしています豊原です。

私は、昨年の4月に西の里出張所へ異動となり、平成5年12月の開設時を含めると、今回で3度目の配属となります。

本日は職場や消防車についてお話させていただきます。

西の里出張所は、両番を合わせ9名の職員が配置され交替で24時間の勤務に就き、平成27年に導入された消防車両を以て、西の里地区の警戒に当たっています。

配備されている消防車は1台で、大曲出張所の車両と同じく、ポンプには「C A F S」と呼ばれる泡を発生させる装置が付いています。

これは、水だけで消火する方法とは異なり、水の中に空気と薬剤を混ぜることによって消火能力を高め、更には少ない水量で消火できる性能を有しています。

また、空気が混入されているためホースの取り回しが容易で、消火活動中の疲労を軽減する特徴を持ちます。

火災現場では、状況に合わせて水消火、泡消火を使い分け、より効果的な手段が選択されています。

私達2担当は、所長を除きますと4名の職員配置です。

交替で週休を取りますので実際には最低人員の3名勤務の日もあり、編成によっては平均年齢が随分と高くなってしまうことがあります。

人数や年齢のことからして、安全性の考慮がされた消防車は私達の補助機器であると言え、今後も与えられた装備品を大切に、業務に取り組んでいきたいと思えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月14日（火）
担当者 消防本部予防課 主査 山崎 良範

おはようございます。妖精の住む街北広島に、安心と安全をお届けする消防本部予防課主査の山崎です。

予防課では、新しく建築される工場、病院、ガソリンスタンドを含めた店舗等、住民の皆さまが普段ご利用される施設を安心してお使い頂けるよう、建物に備えることが必要な消火設備や避難設備等についてのご指導と、災害に備えるために必要な防火管理などソフト面のご指導をさせていただいております。

私はその中でも特に、ガソリンや灯油、軽油等の油類の取扱いや、それらの危険物を貯蔵し、取扱う施設に関する防災、安全対策に関することを担当しております。

日ごろの生活とは切っても切れない、暖房や給湯器の燃料として使う灯油は、とても身近な存在であり取り扱いも非常に簡単なため、その危険性をなかなか実感される機会はないのではないのでしょうか？

「火を近づけるだけで燃え出す」、「一度燃え出すと簡単には消えない」、「漏れてしまった時、火災危険が高く甚大な環境汚染にも繋がる」 普段使い慣れた、便利なものに潜む危うさを、住民の皆さまに、広くもっと知っていただくことが私の使命です。

北海道の冬を乗り切るために、灯油を保管するホームタンクを設置されている住宅で、配管の痛み等から大量の灯油が漏れてしまう事故がまれに起こっております。

あなたのご自宅のホームタンクは大丈夫ですか？

ご心配な点、ご不明な点がある方は、消防本部予防課の山崎をご用命くださいませ。

ところで今日はホワイトデーです。大切なあの方に、日頃の感謝の気持ちをお伝えする準備はお済みですか？

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月15日（水）

担当者 消防本部救急指令課 主査 川村 耕治

おはようございます。消防署救急指令課主査の川村耕治です。平成6年に拝命を受け勤続23年となりました。

平成6年といえば広島町の時代でしたが、毎月市役所から送られてきていた住民基本台帳人口の数が目に見えて急増していた記憶があります。しかし右肩上がりで順調に増加してきた人口も平成19年を境に減少に転じてきており、北広島市は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定して、全庁的に危機感を持って人口減少対策に取り組んでいるところです。

消防署の活動が人口減少に歯止めをかける担い手になることは難しいことなのかもしれません。しかし今後、人口が増加していったとき、また大勢の集客がある商業施設や高層建物が建築されていったときでも、即座に災害対応できるよう、時代に沿った近代的な消火技術を日々訓練して、安心して市民が暮らせるような体制を心がけていく必要があります。また、人口が増えれば救急車の要請件数も増加していきます。救急救命士はブドウ糖投与や点滴など、救急現場で行える高度な救命処置の内容が年々増えており、それに対応するため訓練を日々重ねております。

市が一体となって取り組んでいる街づくりに少しでも消防署が関わられるよう、積極的に私たちも日々の発想、気づきを大切にして、市民が消防に何を望んでいるかを常に考えて仕事するように心がけていきます。

魅力的な街をつくり、安心して市民が住み続けたいと思えるような北広島市になれるように、共に知恵を出し合い消防職員として支え、そして力になれるよう尽力していきます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月16日(木)

担当者 消防本部救急指令課 主査 八十島 康博

おはようございます。救急指令課MC担当の八十島です。

私は現在救急指令課のMC担当をしております。救急救命士の病院研修等の事務的なことをさせていただいています。

救急救命士の病院研修は、気管挿管、薬剤投与、処置拡大等の応急処置の知識、技術向上を身につけるため毎年、計画的に病院実習を行っており、スムーズに病院実習が行えるよう病院との調整を行っています。

救急業務に携わるようになったのは、昭和54年からで今日に至っています。当初の頃の救急出動件数は、今よりはるかに少なく本署と大曲合わせても約百件程度の出動件数で隊員は2名で救急活動をしていました。現在は救急隊員2名での出動はありませんが、救急隊員2名の出動で思い出すのは、心肺停止になった傷病者に心臓マッサージを行うのに救急車内で1名ですべての処置等をしなくてはならないことや、傷病者の体重がとても重く2名で搬送したため腰痛となりその後も腰痛症に悩まされるようになったことです。

現在の救急隊員は、3名乗車で活動を行っており、救急出動件数は当時から比べてはるかに件数が多く、夜中じゅう出動して、眠らない救急隊とも云われ救急隊員の苦労も大変であると思います。そんな救急隊員に活動終了後、職場に戻ってきた時は、「お疲れ様でした。」と声をかけてあげることで少しは出動した隊員の疲れを癒すことが出来ると思います。

市民の安全・安心に立ち、市民から頼り信頼される救急隊員の活動に今後も支援して行きたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月17日（金）

担当者 消防署大曲出張所 主査 西澤 俊和

おはようございます。消防署大曲消防主査の西澤俊和です。

私は今年3月31日付で定年退職となります。

生まれた時は広島村で、小学校6年生の時に広島町となり、中学3年の時に高速道路が開通、大曲インターチェンジができました。そして、北広島団地が造成され人口も増えていき、私が消防士に拝命された昭和54年には3万人弱となりました。

昭和56年8月には輪厚川が氾濫し大水害が発生、私たち消防士も三日間消防署に詰めて、役場職員の皆さんとともに、災害に対処したことを今も鮮明に覚えています。

また去年は、十勝地方で台風による大水害が発生しました。日本列島北部に位置する北海道であっても、地球温暖化により台風の勢力が衰えずさらに拡大して石狩地方を襲うことも考えられます。

北広島市は、今後も発展していくことと思います。これからも災害に強い街づくりを続けていくことが必要と私は考えます。

職員皆さんの熱意が少しでも市民の皆さんに伝わるように、今日も元気に声を掛け合っていきましょう。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月21日（火）
担当者 消防本部警防課 主査 柴崎 啓仁

おはようございます。消防本部警防課の柴崎です。

私の業務の中には応援協定に関する業務があります。

市町村の消防責任は原則として市町村の区域内ですが、他市との境界付近による災害、高速道路で発生した災害、災害規模が発災地の消防力で対応できない災害が発生した場合などを想定し、北海道内及び国内の広域応援体制が確立されております。

過去においては、有珠山噴火や東日本大震災など当市応援隊が出動した実績があり、昨年は、近隣市町村との相互応援で21件、このうち2月に発生した高速自動車道における多重衝突事故では、27隊136名の応援を受け活動することとなり、改めてこの応援協定の必要性を実感したところです。

毎年、全国的に自然災害や大規模火災などの被害があります。組織体制の異なる消防本部間が連携活動をするには、迅速な情報収集と適切な部隊運用が不可欠です。

当市では、交通量の多い国道や高速道路が往来するとともに列車事故への懸念、大規模な工場や商業施設の建設に伴い、一度災害が発生すると大規模化するリスクが高いものと考えます。

消防はあらゆる災害を想定した準備を行う必要がありますが、災害が大規模化した場合は、この応援協定を活用した対応が不可欠となります。

今年は、道央地区の代表として山形県で開催される緊急消防援助隊訓練に参加する予定です。他都市との連携を深めるとともに、応援する側、応援される側の両面から、災害現場で、よりスムーズな活動ができるよう準備を行い、連携強化に努めていきたいと思っております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月22日（水）
担当者 消防署大曲出張所 主査 宍戸 靖

おはようございます。消防署大曲出張所救急主査の宍戸です。

今回、貴重な機会を与えていただいたので、平成28年のデータに基づき、北広島市の救急の現状をお話しさせていただきたいと思います。

平成28年は2,140件の出動、搬送人員は1,918人で1日平均に換算しますと6件の出動、北広島市の人口で割ると市民約30人に1人が搬送されている計算になります。

年齢別の搬送人員は65歳以上の高齢者が1,043人と全体の54%を占め最も多く、今後、更に高齢化が進み搬送人員の増加が予測されます。

程度別の搬送人員ですが、医療機関へ搬送され入院することなく診察、処置を受け、その日のうちに帰宅された軽傷者が最も多く938人で全体の49%を占め、重傷疾患発生時の現場到着時間に遅延を来すため、今後もより効果的な救急車の適正利用を呼び掛けていかなければならないと感じております。

災害を覚知してから現場までの到着時間ですが、平均9分となっており、少しずつではありますが出動件数の増加とともに、医療機関から引き揚げ中に出動するケースが増え、現場までの到着時間がのびているものと思われま

す。覚知から医療機関までの搬送にかかる時間は、平均46分かかっています。北広島市の医療事情として、札幌市を含む近隣に比較的、大きな専門治療を行える医療機関が存在し、北広島市内以外の医療機関を掛かりつけとしている方も多く、特に急性期の脳疾患、循環器疾患の多くは近隣市に搬送しているため、若干、搬送時間が長くなっていると思いますが、より高度な治療を必要としている方に、適切な治療を受けていただくためには致し方ない事ではないかと考えます。

短時間のため、簡単に北広島市の救急の現状をお話しさせていただきました。まだまだ、お伝えしたい事は沢山ありますが、この続きは救急講習会等でお会いしたときにお話ししたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にたく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年3月23日(木)

担当者 消防署西の里出張所 主査 森 雅弘

おはようございます。消防署西の里出張所査察担当主査の森雅弘です。

東日本大震災から今月で丁度6年が経過しました。震災後、インフラ等の復旧や整備が進む中、現在もけがや病気で苦しんでいる方々、また家族や肉親を失った方々がたくさんいらっしゃいます。

みなさん、災害弱者の中に動物、主に家畜やペットという概念も含まれていることをご存知でしょうか？災害弱者といえども、女性、高齢者、病人や生活困難者ですが最近ではこれに、ことばがうまく通じない外国人や動物、ペットなども災害弱者として認識されてきております。

震災で不幸にして飼い主が亡くなってしまわれたり、ケガをしていたり、飼い主と逸れ食べ物が無い等の被災したペットの保護、健康管理や飼い主探し等の活動をしているボランティア団体がある事をテレビやインターネットを通じ知ることができました。

私は自宅に犬を3頭飼っておりますが、自分達にもし何かあったら？と考えたとき、そういった組織の存在が私たち飼い主に安心感を与えてくれるだけでなく、愛する動物たちの拠り所となってくれることと思います。

本来、災害時には最優先して守られるべきは人命であることは言うまでもありません、法的には財産である動物、ペットについても公務員は準じてその保護にあたらなければなりません。法律の中では生命、身体ではなくあくまでも財産としての位置付けなのですが、飼い主は皆、家畜やペットを財産ではなく、かけがえのない家族として愛情を注ぎ育てているのです。

どうか多くの救助者が心情的にもその意義を理解できるものであることを切に願っております。

余談ではありますが、つい先日、私の勤務する管轄で積雪により崩れた建物壁面の空間に閉じ込められた猫を救助するという事例がありました。猫は救助後、逃げるようにその場からいなくなったそうですが後日、WEB上でその事例がアップされていることを知り、その後の猫の元気な様子を確認することができました。担当した職員は一安心しておりました。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。